

平成30年度 兵庫県立川西北陵高等学校 学校評価

1 教育目標

己にうち克つ厳しさと、和して同ぜぬ真の協調とを根源として、豊かな創造性を培い、もって人類・国家・社会に貢献する人間を育成する。 校訓：克己・協調・創造	生活訓：礼を正し、場を清め、時を守る
--	--------------------

2 重点目標

校訓・生活訓等、創立時の精神を尊重するとともに、社会の情勢と地域の要望に対応した教育を推進する。

- 自立して未来に挑戦する態度の育成
 - 主体的な進路実現を支援し、自己実現の夢を育むキャリア教育の創造
 - グローバルな視野を持って地域社会に貢献する態度の育成
 - 探究活動や表現活動等、特色ある教育の推進
- 「生きる力」を育む教育の推進
 - 個に応じたきめ細かな学習指導を行い、創造性を引き出し伸ばす教育の充実
 - 自律の心を育て、心豊かで思いやりのある生徒の育成
 - 共生の心を育み、安全・安心な学校環境の整備
- 子供たちの学びを支える仕組みの確立
 - 魅力ある学校を創造し、地域に信頼される学校づくりの推進
 - 「教えるプロ」としての教師集団の確立

4 総合的な関係者評価

- 地域とのつながり、共存共栄、徐々に実を結んできた。今後は地域行事の企画段階から関わる等、より主体的に活動を期待する。
- ◆「2重点目標」について県の指導の重点に合致していると思われるが、より分かりやすくできないか
- 「3自己評価」について、実施できなかった項目もあったが、AとBのバランスを考えると妥当な評価であろう。

3 自己評価

評価項目	主な取組	達成状況		取組状況・改善方策		
		取組	総合			
(1) 自立して未来に挑戦する態度の育成	ア キャリア力の育成	①地域と連携した職業人インタビュー	A	A	○職業人インタビューの対象を地域の人々に広げた。社会性の育成にも効果をあげられた。 ○北陵らしいキャリア教育という視点から、進路指導についても在り方を検討する。	
		②キャリアプランを考える進路指導	A			
		③大学・専門学校等の体験講習	A			
		④進路について考える講演会	A			
	イ グローバル力の育成	①地域の文化・歴史等を学ぶ講演会	B	B		
		②世界に視野を広げる講演会	B			
		③西豪州高校生との相互交流訪問	A			
	ウ 探究と表現類型の設置	①コミュニケーション力を育む体験活動	A	A		
		②JICAと連携した異文化理解	A			
		③日本の文化等を発信する英語発表	A			
		④地域課題の解決に取り組む体験活動	A			
		⑤学びの成果を発信する発表会	A			
(2) 「生きる力」を育む教育の推進	ア 確かな学力の育成	①習熟度別少人数授業(数・英)	A	A	○知識・技能の習得は、スモール・ステップで学習を習慣づける「北陵方式」が確立している。 ○家庭学習課題、長期休業中の補習について、生徒の主体的な取組が課題。実態に応じた内容、分量となるよう、学年ごとに総合的に検討する。	
		②SHR(朝礼)での小テスト(国・英)	A			
		③週末の家庭学習課題(国・数・英)	A			
		④成績不振者への面談・補充	A			
		⑤長期休業中の補習(国・社・数・理・英)	A			
		⑥検定試験の学校受験(国・英)	A			
	(イ) 思考力・判断力・表現力等の育成	①授業内容の精選と発展的内容の取入れ	B	B		
		②主体的・対話的で深い学び(全教科)	C			
	(ウ) 学びに向かう力・人間性等の涵養	①評価規準・シラバスの公表	B	B		
		②生徒による家庭学習の記録	B			
		③生徒による授業評価(全教科)	B			
	イ 豊かな心の育成	①校訓・生活訓に基づく人間教育	B	B		○対話的な学びはある程度進めることができた。主体的な深い学びにどう結びつけるかが課題。 ○各教科、教科を連携した授業研究会の開催等、さらなる授業改善を進める。
②年間指導計画を立てたHR活動		B				
③生徒会が主導する文化発表会		A				
④自主的・自発的な部活動		B				
⑤芸術文化に親しむ鑑賞会		B				
(イ) 社会性の育成	①学校いじめ基本方針の改定・実施	A	B			
	②情報モラル等、新たな課題に係る講演会	A				
	③認知症サポーター講習会	B				
	④地域清掃等を行う労働体験	B				
	⑤マニュアルに基づく危機管理	B				
	⑥消防署と連携した避難訓練・安全講習	B				
ウ 健やかな体の育成	①種目選択別少人数授業	A	A			
	②生徒が主導する体育大会等	C				
	③スキー実習等を伴う修学旅行	A				
(イ) 健康の増進	①計画的な健康保持・増進	B	A	○体育大会において生徒が主体となり企画運営する生徒組織の改善をするともに、予備日の複数日設定等について検討する。		
	②キャンパス・カウンセラーとの協働	A				
	③警察と連携した薬物乱用防止、安全指導	B				
	④WBGTに基づく熱中症対策	A				
	⑤生徒(保健委員会)による啓発活動	A				
(3) 子供たちの学びを支える仕組み	ア PTAの参画と協働	①国際交流等、学校行事への支援・協力	A		A	○国際交流、文化発表会等、教育活動の改善に力強い支援を得た。 ○PTAが学校の方向性を理解するとともに、主体的な情報発信によって学校を支援し、地域の理解を促進した。
		②登校指導等、教育活動への支援・協力	A			
		③広報誌『北陵』による情報発信	A			
		④学年通信等、PTAと学校の情報共有	B			
	イ 地域への情報の発信	①生徒が主導するオープン・ハイスクール	A		A	
		②保護者や地域に向けた公開授業	B			
		③学校評議員会の定期開催	A			
		④分かりやすい学校評価の公表	B			
	ウ 学校の組織力・教員の資質能力の向上	①大学・中学校と連携した授業研究(理科)	A	A	○オープン・ハイスクールについて、生徒が司会、演劇やショー、動画等のプレゼンを行うことにより、愛校心や達成感を育成した。 ○学校評議員会の行事とともに定期開催し、学校評価の公表を分かりやすく実施した。	
		②外部の授業研究会への参加(理・英・情)	A			
		③生徒理解を深める校内研修会	B			
		④人権意識を高める校内研修会	B			
⑤生徒指導便り等、HR支援資料の配布		A				

5 自己評価への関係者評価

評価項目ごとの評価

- 進学ばかりでなく就職者への対応などから、高校卒業後の出口対応がしっかりされている。
- 身近な先輩の体験がモデルケースになる。卒業生の体験談を聴く機会をもっと設けてほしい。
- 特色類型発表会を参観したが、英語での発表もあり、男女とも、しっかり発表していた。完成度の高いプレゼンテーションを見ると、中学生や保護者もぜひとも入学したいとの希望を持つだろう。

- 認知症サポーターの話があったが、多文化共生の取組なども高校生が地域と協働できる可能性があるのではないかと。
- 週2日のノー部活動デーは生徒に故障者が多い上に、教職員の働き方改革があって取り上げられた話だと思う。ノー部活動に取り組みながら部活動が活性化される取組が望まれる。
- 交通マナーアップキャンペーンへの参加をしてきてありがたい。高校生の登校マナーは向上してきているが、継続してより良いマナーを目指してほしい。
- ◆高校は地域の人間が入りにくい場所。地域が学校に参入することで、学校も地域も活性化する。
- ◆地域の中学校との各教科、教科を連携した授業研究会の開催等、さらなる授業改善を進めてほしい。

- オープン・ハイスクールを生徒主体で行えていることが素晴らしい。学校の魅力が上手に伝わっている。
- 自己表現力は本当に重要だと思う。自分の感情をきちんと相手に表現でき、コミュニケーションや人間関係を高められて、社会人として財産となるような力を身につけていると思う。
- ◆部活動の時間が短縮され、休みが増える。生徒とよく話し合っ、時間を有効に使えるような工夫をお願いしたい。